

2019年度 京都大学文学研究科・文学部公開シンポジウム

文化遺産の現在(いま)

日本そして世界において、「文化遺産」の概念、および現代社会との関係は大きく変化しようとしています。本シンポジウムでは、さまざまな地域・研究対象をめぐる事例報告をもとに、「文化遺産」をめぐる諸問題について、本年度に新設された附属文化遺産学・人文知連携センター（CESCHI）がどのような役割を果たすことができるのかについて、議論を深めたいと考えています。多数のご参加をお待ちしております。

12/7 (土) 午後 1:30-5:30

京都大学文学部校舎第3講義室
(京都市左京区吉田本町)

参加無料

申込不要

プログラム

趣旨説明 吉井 秀夫 (CESCHI センター長)

「北白川から垣間みる縄文の世界」 千葉 豊 (文学研究科准教授)

「危機を迎える文化遺産との対話

—アフガニスタンとパキスタンの事例から—

内記 理 (文学研究科助教)

「木材学の視点から見る文化遺産」 杉山 淳司 (生存圏研究所教授)

「宗教思想から文化遺産学を広げる —日本中世の仏と神の世界—」

上島 享 (文学研究科教授)

パネルディスカッション「文化遺産の現在(いま)」

司会：吉井 秀夫

パネラー：上島 享・杉山 淳司・千葉 豊・内記 理



【お問い合わせ】 京都大学文学研究科総務掛 (TEL 075-753-2700)
【主催】 京都大学大学院文学研究科
【協賛】 京大以文会